

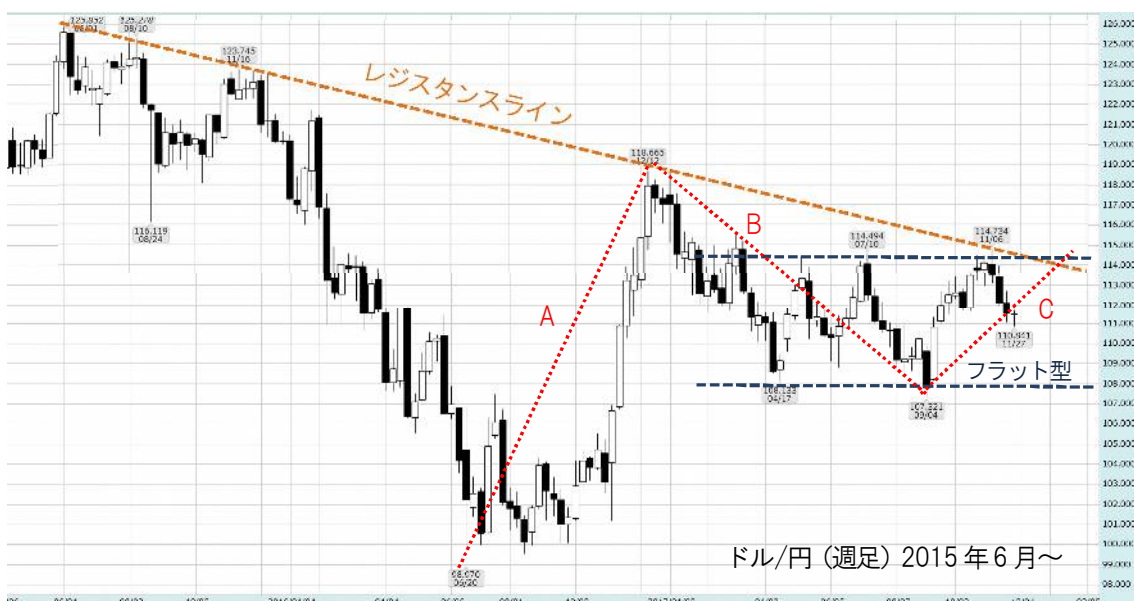
■ ドル/円は年末に向けて強気の流れを取り戻す？

今年も残すところ約1カ月。先週、米感謝祭やブラックフライデーを通過し、そろそろ「年末ドル高」のアノマリーが市場で取り沙汰され始めるシーズンとなる。

米年末商戦の出だしもすこぶる好調なようであるし、足下で発表される米経済指標も概ね米景気が堅調に推移していることを示唆している。果たして、この年末にもドル/円は長らく形成してきた「フラット型の保ち合いレンジ」から上方へ抜け出すことができるか。一つのカギを握るのは「2015年6月高値(=125.85円)とその後の主な高値を結ぶレジスタンスラインをクリアに上抜けるかどうか」であると言えそうだ。

下図を見てもわかるとおり、このレジスタンスラインを上方ブレイクしない限り、「2015年6月高値からのドル/円の調整は終了した」とは言えないものと思われる。最近では11/6に114.73円の高値をつけに行った時点で、場合によっては「保ち合いレンジから上放れる可能性も…」と期待したが、結局は同ラインに見事に上値を押さえられる格好となった。

このドル/円の保ち合いレンジというのは、大よそ107円台半ば～114円台半ばの間で形成されており、その中心は111円処である。その実、9/8安値(=107.32円)から11/6高値(=114.73円)までの上げに対する半値押しは111円処で、とりあえず足下では同水準が下値をサポートしている模様である。



なおレンジ相場が続いているという前提に立てば、仮に111円処を下抜けた場合、再び107円台半ばあたりまで下押し可能性があるということになるため、そこは要注意である。また、逆に111円処で下げ渋って反発すれば、少なくともレンジ上辺が位置する114円台半ばあたりまでは再び値を戻す可能性が高まるということにもなる。

これまでと異なるのは、次にレンジ上辺の水準まで行き着くとすれば、その過程で前記のレジスタンスラインを上抜ける結果になるということである。筆者は、昨年6月につけたブレイク・ショック後の安値から新たな強気の展開がスタートしていると考えており、昨年12月高値(=118.67円)までが「A波」、今年9月安値までが「B波」とするとすれば、現在は9月安値を起点とする「C波」の強気波動のなかにあると見られる。

この強気波動がいよいよ本格的なものとなるのは、やはり前記のレジスタンスラインをクリア・ブレイクした後であると思われる。そのタイミングは近い将来ではないかと思われる。米株価がクリスマス・ラリーの様相を呈するようになることにも期待したい。

(11月30日 08:00)